



10月に入って衣替えを迎え、教室の様子ががらりと変わりました。寒さも一段と増してきて、冬の訪れを感じるようになりました。2学期の2つの大きな行事を終えてほっと一息つくたいところですが、弁論大会や芸術鑑賞会など、まだまだ行事が続く、忙しい日々を過ごしています。

ミュージカル「ノートルダム物語」

9月28日(月)にショーマンシップの方をお招きし、哲多総合センターでミュージカルを鑑賞しました。演技はもちろんのこと、歌や踊り、ジャグリングやディアボロなど、見どころ満載でした。ミュージカルを通して「小さな勇気をもって、力いっぱい今を生き抜くことの大切さ」を教えてくださいました。
～感想～

・私も自分に自信を無くすことがあるけど、今日の物語を見て、少し勇気がもらえた気がします。今日は、楽しむだけではなくて、生きていくなかで大切なことも学べるような時間だったと思います。思い出に残りました。

・種族も関係なく自由に生きていけることがどんなに素晴らしいかわかりました。見た目や人種にとられることなく、一人の人間として、主人公はとても強くて、優しい人だと思いました。1時間40分がとても短く感じるほど楽しい時間でした。

「SDGs」新見高校出前授業

10月5日(月)に新見高校から4名の生徒に来ていただき、SDGsについて話を聞きました。SDGs(持続可能な開発目標)とは、国連加盟国が2030年までの達成を目指す、貧困や教育、環境など17分野にわたる目標のことです。新見高校の生徒はそれぞれに課題意識をもち、自分達だけでなく、地域を含めて意識改革をしようと取り組んでいました。そして今回は、先進国と発展途上国の教育環境の違いについて、主権者教育、海の豊かさを守る取り組み、全ての人に健康と福祉をというテーマで話をしてくださいました。とてもわかりやすい説明と堂々とした発表を、中学生は尊敬のまなざしで聞いていました。世界の様々な問題について知ること、関心をもつこと、調べること、一歩行動することがこれから求められるというお話をいただきました。

学年の枠を超え、楽しんだ球技大会

10月6日(火)に球技大会がありました。男子はサッカー、女子はバレーボールでした。この日は天候にも恵まれ、グラウンドではゴールを決めるたびに大きな歓声が起きていました。体育館ではバレーボール部を筆頭にナイスプレーが見られました。学年の垣根を越えて全校で球技大会に取り組めるのも、哲多中学校のよさの一つだと思います。



自分の思いを伝え、思いを受け取った弁論大会

10月7日(水)に校内弁論大会がありました。学級弁論大会で代表に選ばれた6名が自分の思いを自分の言葉で伝えることができました。3年生代表は吉尾蒼太君と野尻葵さんでした。

吉尾君は、新型コロナウイルスの影響で大好きな野球ができなくなったことから、今送っている日常は当たり前だと思わず大切にしたいという思いを述べました。野尻さんは、これまでの引っ込み思案ではなく自信をもって文化祭に取り組んだことから、これから立ち向かう壁にも自信をもって意見したいという思いを述べました。

二人とも、学級代表にふさわしく、堂々と自分の意見を述べることができました。また、聞き手の感想からも、弁士の思いを受け止めて自分自身を振り返ったり共感したりと、思いをきちんと受け取った様子が伝わってきました。



「当たり前じゃない」

「私を変えた行事」

